

**山田緑地・北九州市ほたる館
指定管理者検討会 会議録**

- 1 開催日時 平成30年10月18日(木) 9:30~11:45
- 2 場 所 北九州市役所(小倉北区内1番1号) 12階 121会議室
- 3 出席者 (検討会構成員) 薛構成員(座長)、横山構成員、福地構成員、城水構成員
横田構成員
(事務局) 建設局公園緑地部長、公園管理課長、公園管理課企画係長、職員
みどり公園整備課設計係長、職員
水環境課長、ほたる係長、職員

4 会議内容

- 当日のスケジュール、審査にあたっての留意点、審査結果の公表等について事務局より説明。
- 構成員の互選により、座長を選出。

○応募団体(九州造園・グリーンワーク共同事業体)より提案概要に関してヒアリング

(構成員) 次の5年間で利用者にとって、ここが変わったとか良くなったと思わせるポイントはあるか。

(応募団体) 山田緑地は生き物調査の結果、生き物が減少していることが課題となっている。ビーパールプロジェクトを含めた新しい里山的事業を展開していきたいことから、生き物の生態系に配慮した管理を構築して、皆さんに情報発信していきたい。

ほたる館は、今後も生き物の新しい講座を展開していきたいし、全国に魅力を情報発信していきたい。

(構成員) 山田緑地の広報活動、営業活動に関して、具体的に何をされるのか。また、ほたる館のホタルを含めた生き物の飼育は、誰が主担当なのか。

(応募団体) 今まで関連の環境施設、各自治体等に色々なチラシ等の配布をしていたが両施設ともに積極的な営業が出来ていなかった。今後はJRの駅や門司港レトロなどの関連施設に職員が訪問して、積極的に営業、広報活動を展開していきたい。

ほたる館の飼育は、スタッフ2名で行っている。ボランティアの協力を得ながら行っていく。山田緑地とほたる館は別の施設であるが、スタッフが交流して運営にあたっている。

(構成員) 共同事業体のどちらがメインなのか。

(応募団体) 九州造園が経費に関すること、グリーンワークが集客に関することを担っており、飼育に関しては、ほたる館の館長を中心に皆であたっている。

(構成員) これまでの5年間の実績を踏まえて、どのような問題意識をもち、具体的展開として何をしていくのかももう少し詳しく教えて欲しい。例えば、専門家との新たな繋がりにより新規プログラムを開発することも検討していると書かれているが、どのようなことを検討して

いるのか。

(応募団体) 山田緑地では、いのちのたび博物館学芸員の指導のもと、一部、利用区域、保全区域の木を伐開して、植生や生き物がどのように変わっていくのか調査を行っている。また、九州工業大学といのちのたび博物館学芸員と共同でオブラートな設定をして5年に1回の頻度で生き物調査を行っている。その他、生き物調査を毎年実施しており、その結果は、来園者に解りやすいように展示ホールで情報発信していきたい。

(構成員) NPO 法人として、これだけの収益をきちんと上げて素晴らしいことだと思う。本体のNPOの会員と役員と別の方がこれに関っているのか。

(応募団体) 会員と役員であり、それ以外は関っていない。行政から勝山公園出口側のボランティア花壇の支援や教育委員会と保育課とが連携した園庭芝生化の業務を受託し、収入を得ている。また、行政の他にも同様の活動を受託している。

(構成員) 小学館との連携については、市と小学館が何か契約しているのか。

(応募団体) 現在は、市と小学館が連携契約をしており、市が小学館に委託している。そのなかで、山田緑地の管理事務所として手伝っている。何れは我々がその活動をしていきたい。

(構成員) その活動のメリットは集客なのか。助成金や補助金につながるのか。

(応募団体) 今のところは無い。

(構成員) 大学と提携しながら、色々な調査をされ、地道で大変素晴らしいと思うが、このサンプリングや調査結果をどう活かすのか、また、データの集積や分析はどこでしているのか。

(応募団体) グリーンワークの母体に設計事務所も入っており、そのなかでデータの図面化や報告書の取りまとめを行っている。

今後もグリーンワークのなかで、データの取りまとめをし、展示ホール等で皆さんに解りやすく情報発信していきたい。

(構成員) 30世紀の森づくりについて、どのようになっているのが目標か。あるいはそれに向かってどのように今の課題を解決していくのか。

(応募団体) 30世紀は随分先で、見当がつかないところはあるが、5年10年ぐらいのスパンで今の社会情勢や環境に合わせた維持管理や方針を立てながら進めていきたい。どちらかという保全系で運営していきたいと考えている。3つのゾーンのうち、利用区域と保全区域に関しては、その時代背景を考えながら運営し、保護区域に関しては、最終的な植生がどうなるか解らないが、保護区域として見守っていきたい。

(構成員) 集客のために今後5年間で新たに取り組むものがあるか。また、あまり効果が無いため止めた取り組みがあるか。あれば教えて欲しい。また、ほたる館では、北九州市内の各地でホテルを飛ばそうという活動の状況を把握しているか。私の知るところで、黒崎中学校の近くに撥川があり、そこでホテルを飛ばそうと毎年お祭りをやっている。その団体も含め、各地で活動している団体との交流や支援状況はどうか。

(応募団体) 山田緑地の集客について、来園者から食べ物あまりなくて長く滞在できないとの意見が数多くあったため、この5年間でマルシェを実施し、成功したと考えている。民間の方たちからマルシェを実施したいとの要望が出ているため、民間マルシェを少し増やしていきたい。売店を改造して、来園者の要望に応えるような仕組みも作ってきたい。

また、夜の昆虫講座とか生き物の講座が重なっていることが多いため、整理をしてイベント費を効率的に使ってきたい。

ほたる館ではマイボタル制度があり、ほたる館の施設を利用して各地域の愛護団体の方がホタルを増やすため幼虫の飼育を行っており、その指導をしている。また、現地でも色々な指導を行っている。撥川の愛護団体との交流も深く、ほたる館に代表の方が来館されるし、ほたる館の館長が現地に行って指導することもある。

(構成員) 提案の中に、ホタルの愛護団体の活動状況と支援状況を加えていたら良かったと思う。

(構成員) 山田緑地の適正利用規模について、どのように考えているか。

(応募団体) 休日の利用で最大になるのは、マルシェの時に2,000人から3,000人程度であり、店舗周辺は一杯になるが、芝生広場、森の家から奥側、森のゲート付近はあまり多くない。平日はほとんど利用されていないところがあり、貸部屋の稼働率も全体で50%程度である。施設の規模としては余裕があると考えており、一日に5,000~6,000人ぐらいは来園していただけるよう運営していきたい。

山田緑地の特徴として、何度も来てくださる近隣の高齢者のリピーターが比較的多いが、奥まで行かない方が多いことから、その辺の対策が必要である。

(構成員) ほたる館有料室の地域交流室と研修室の利用料金収入が0円となっているが計算上入っていないのか。また、ホタルの飼育は専門性が高く、すごく難しいものか。

それから、山田緑地を里地里山に戻すにはどのぐらいの期間がかかるのか。

(事務局) ほたる館の地域交流室と研修室に係る収入については、利用料金ではなく使用料となるため、収入の帰属は市のものとなることから、収支計画には計算上入れることが出来ない。

(応募団体) ゲンジボタルは、とても繊細な生き物で環境の指標生物となっており、ゲンジボタルが飛ぶことが人間にとっても非常に良い環境ということが言われている。飼育には酸素を多く含み、流れのある綺麗な川でないとダメで大変難しいため、ほたる館では、6月に産卵させ、幼虫の死亡率が上昇する10月中旬までに放流している。年間通じて育てていくのは難しい。ほたる館は今後も専門的な知識を持つ2人体制で管理、運営を行っていく。また、来館者には見せるだけでなく、専門的に色々レクチャーしていきたい。

里地里山については、先生方の指導を仰ぎながら、参加者とともによく5年間かけて進めていきたい。木を伐開するなどの実験的なものは1年目から取り組む。

(構成員) 両施設の利用者アンケートと安全に対する満足が得られるための取り組みについて、どんな具体的な困難があり、どのように対応しているか。

また、ボランティアを増やすことや育てることなど、何か積極的に検討していることがあるか。

(応募団体) アンケートは、どこから来たか、家族構成、年齢、職員の対応はどうだったかなどについて行っている。ボランティアは、定例の森の観察会やバードウォッチング、団体、小規模のグループなどで樹木の調査、樹名札の取り付け、フローラ調査、草花の調査などを図面化し、園内に展示している。

また、他に県外、市外の高校の農学部、園芸科の生徒をインターンシップで積極的に受け入れ、ボランティアの方々と一緒に花植え作業など楽しく活動している。

(構成員) 今後の指定管理経費について、管理運営費、収入とも少し上がり、指定管理料は同じという見込みとなっている。実績がある団体なので、もう少しメリハリを付けた工夫ができるのではないか。

(応募団体) 来園者数の増加を期待しているが、今年は猛暑で来園者が激減していることもあり、

天候による不安材料もあるため、収支計画表では表現できなかった。これまで5年間管理してきた実績から、施設の老朽化も進み、地盤が弱いことによる倒木が非常に多いことが分かった。その撤去作業に非常にお金がかかり、不確定要素が非常に大きく、それをどこで吸収していくのかが一番の課題となり、帳尻合わせをしている面もある。赤字になる年もある。

(構成員) 大変な年が出てきて手入れをして金額が増えた分、他の年でカバーするなど年度毎に収支の増減が見えれば良かったと思う。

(構成員) 北九州市や山田緑地近くでは森や川が多いことから、是非、ほたる館が中心となってホテルが舞う北九州市を発信し、環境イメージを上げていただきたいと期待している。

○構成員は、提案概要のヒアリングと質疑応答を受けて各自得点を記入。

○構成員は、審査項目「指定管理者としての適性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 特に山田緑地について、「自然環境の保全に資すること」という設置目的の達成のために実施すべきことを明確に盛り込んだ提案内容となっており、市が求めているものもしっかりと捉えていると感じた。

(構成員) 利用区域、保護区域、保全区域の3つに分けられたそれぞれの区域に適した管理を着実に続けていく方針は評価できる。

(構成員) 審査の結果、「指定管理者としての適性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

○「管理運営の理念」の項目が4、「人的・財政基盤」、「実績・経験」の項目が3が妥当であると考える。

○構成員は、審査項目「有効性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 「指定管理者としての適性」の項目と同様に、設置目的の達成のために向けた取り組みが、しっかりと盛り込まれている提案となっている。

(構成員) ほたる館はホテルに関する連携をさまざまな地域と行っていることを、もっと情報発信してもいいのではないかと感じた。

(構成員) 提案書からは具体的な営業・広報活動があまり伝わってこなかった。

(構成員) 前回の提案内容と比較して、新たに取り組む内容が見えなかった。

(構成員) まじめにしっかりと指定管理業務を行っているのは伝わったが、もう少し発展性を持った視点での提案も欲しかった。

(構成員) 審査の結果、「有効性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「設置目的の達成」、「利用者の満足度」の項目が3
が妥当であるとする。

○構成員は、審査項目「効率性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 今までの実績があるので、収支計画についてはもう少しメリハリをつけた工夫ができたのではないかと。

(構成員) 審査の結果、「効率性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「指定管理料及び収入」、「収支計画の妥当性及び実現可能性」の項目が3
が妥当であるとする。

○構成員は、審査項目「適正性」について協議し、各構成員の評価レベルを再度確認したうえで、検討会としての評価レベルを決定

(構成員) 市の要求水準を満たしており、管理運営体制や平等利用、安全対策、危機管理体制についても問題はないと思う。

(構成員) 審査の結果、「適正性」については、現在の評価レベルでよいか。

(全構成員) よい。

(全構成員) 検討会の評価レベルは、

- 「管理運営体制」、「平等利用・安全対策・危機管理体制」の項目が3
が妥当であるとする。

○構成員は、次のとおり検討会としての検討結果をとりまとめた。

九州造園・グリーンワーク共同事業体は、現指定管理者として設置目的に沿った管理運営をしており、市の要求水準を超える適性を持っていると評価した。

全体としては、市の要求水準を満たす提案であるが、残念ながら、それ以上の提案も見当たらず、次期指定管理については、問題意識や目標の明確化、ロビーに展示するだけの情報展示から積極的な情報発信へと転換することを期待する。

植生管理や森林管理は手順が決まっていることなので、調査をしなければ着手できないことではない。「30世紀の森づくり」への姿勢は間違っていないので、集客や自然保護といった目的にかなった管理運営を期待する。

審査の結果、検討会としては九州造園・グリーンワーク共同事業体が指定管理者の候補として相応しいと考える。

○とりまとめを行って、検討会を終了した。